

# 自走式水洗トイレカー導入

自治体名

兵庫県南あわじ市

人口（R6.5.31現在）

44,130人

## 取組のキーワード

■ トイレカー

■ 衛生状態確保

■ 福祉ニーズへの対応

■ オストメイト・車いすへの対応

地域計画の履歴

令和2年3月 策定  
令和6年3月 改定

取組のカテゴリ

想定災害 災害全般

取組主体 行政職員

施策分野 住宅・都市

保険医療・福祉

## 取組の概要・ポイント

### 取組を実施するきっかけとなった背景や課題

- ✓ 被災時のトイレの衛生問題は避難所の環境改善の観点から重要な問題であり、簡易トイレや携帯トイレの備蓄・活用も進めているが、災害状況下においても、平時に近い衛生的で快適なトイレ環境づくりが課題であったことから、トイレカーの導入を検討した。

### 取組と地域計画の関係

- ✓ リスクシナリオ「2-6 劣悪な避難生活環境、不十分な健康管理による多数の被災者の健康状態の悪化・死者の発生」の対応施策として記載。
- ✓ KPIとして「自走式水洗トイレカーの導入」を掲げている。

### 取組の内容

- ✓ 自走式水洗トイレカーを導入。
- ✓ 災害時や被災地への応援だけでなく、平時は、市主催のスポーツイベントや防災訓練等で活用。

### 今後の展開予定

- ✓ 被災地派遣で明確化した課題への対応策の検討・運用性の向上に加え、全国的なトイレカーの普及とネットワークの構築。
- ✓ マンホールトイレの設置等、避難所のトイレ環境に対する複合的な改善施策の推進。

## 1 取組を実施するきっかけとなった背景や課題

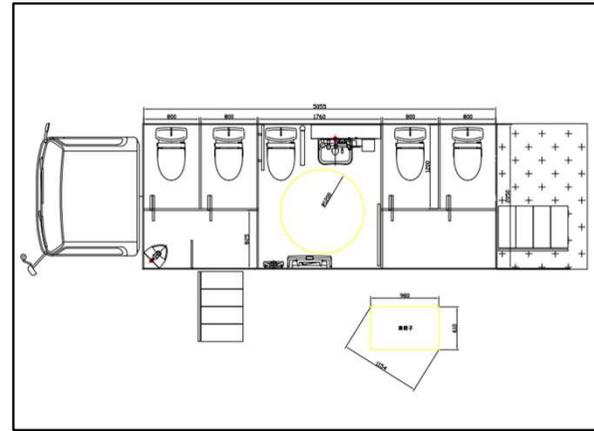
- 南あわじ市は淡路島の南部に位置し、淡路島は明石海峡大橋と大鳴門橋の2橋により、本州・四国からのアクセスが可能である。しかし、南海トラフ地震等の大規模災害が発生した際には、一時通行ができないことが予想され、発災直後は外部からの支援は期待できず、まさに孤島となる可能性がある。
- 過去の災害では、上下水道施設の被災等により使用できなくなったトイレが汚物でいっぱいになるなど劣悪な環境になった例が数多く報告されている。また、そのようなトイレを使用しながら避難者がトイレに行くことを控えることが原因となって、エコノミークラス症候群や心筋梗塞等の「災害関連死」に至ることも問題となっている。
- そのため、携帯トイレ・簡易トイレ等の備蓄や災害時の活用も進めているが、平時とは異なるトイレ環境に被災者が抵抗感を覚えるなど課題が多く、災害時においても平時に近い衛生的で快適なトイレ環境づくりが課題であったところ、トイレカーを先進的に導入している静岡県藤枝市への議員視察があり、これを受けて本市の防災力強化という目標を達成する、1つの手段として自走式水洗トイレカーを導入した。

## 2 取組の内容

- 所有する水洗トイレカーは、自走式であるため災害発生後速やかに派遣でき、衛生的で快適なトイレを提供することが可能である。福祉ニーズにも対応しており、垂直昇降機を備え、車いす利用者やオストメイトに対応したトイレカーは全国初（導入時）。
- 災害時だけでなく、平時でも市主催のスポーツイベントや防災訓練での展示等、地域住民をはじめ、参加者に対しても広くPRを行っている。
- 令和6年能登半島地震の際は、石川県珠洲市に1月8日～5月31日の約5か月間、トイレカーを派遣し被災地支援を行った。また、被災時に自走式水洗トイレカーを相互派遣する「災害時応援協定」を愛媛県宇和島市、長崎県島原市と締結している（R6.5.31時点）。
- トイレカー自体の維持に必要な経費は燃料費、自動車保険料等含め350千円/年程度であり、汚物の廃棄等に別途費用がかかる。



被災地支援の様子



トイレカー平面図

### 3 取組と地域計画の関係

#### 【地域計画における記載】

- 令和2年3月制定の国土強靱化地域計画では、リスクシナリオとして「2-6 劣悪な避難生活環境、不十分な健康管理による多数の被災者の健康状態の悪化・死者の発生」を設定しており、当該リスクシナリオに対する対応方策の推進方針の1つに、「毛布やトイレなど、避難生活環境を整える物資等の備蓄を推進する。」と記載している。多重防御の観点より、被災者の生活環境改善の施策を様々実施する旨が地域計画内に記載されているが、その中の一つとしてトイレカーの導入が挙げられている。
- KPIとして「自走式トイレカーの導入」を掲げており、令和2年度に整備することを目標としていたが、令和2年12月に導入済みである。
- 令和6年能登半島地震への支援を受け、自走式水洗トイレカーの必要性や、相互応援協定等の横のつながりの重要性を再認識した。本市の防災力を強化し、大規模自然災害に対して、国・県あるいは近隣市とも連携・調和のとれた「強さ」と「しなやかさ」を備えた『強靱な南あわじ市』を推進するため、内容充実を含め改訂を行う予定である。

## 4 今後の展開予定

- 導入後、初となる石川県珠洲市への災害派遣により、実際の災害状況下でトイレカーを運用する際の課題が明確になった。トイレの利用停止時間を最小限にするためにも、便器洗浄や手洗いに使用する浄水の供給体制と汚泥処理の仕組みづくりが不可欠である。今後、これらの課題への対応策を検討し、運用性の向上を図るとともに、全国的なトイレカーの普及・ネットワークの構築を目指す。
- 前述のトイレカーの運用性の向上のみならず、マンホールトイレの設置や携帯トイレ・簡易トイレの備蓄の充実等、複合的に災害時のトイレ環境の充実を図る。

### 参考 周囲の声（庁内職員・住民・企業）

- 和式の仮設トイレは高齢者や幼児の使用に懸念があるが、トイレカーは洋式で臭いも少なく、水洗のため衛生的で使いやすい。（トイレカー利用者）
- 流水で手を洗うことができ、診察・診療時に菌を持ち込んでしまうことを心配せずに、支援ができる。（医療関係者）
- トイレカーを無くしては支援活動ができなかった。（医療関係者）
- 被災者を直接的に支援するほかに、医療関係者等の支援者を支援するという新たな視点を得た。（庁内職員）

※能登半島地震での派遣実績を受け、兵庫県内だけでなく、全国の自治体でもトイレカーの導入検討が始まっている。